

# 法定協議会第2回会議を開催

## 事務事業一元化調整方針など承認

川西薩地区法定合併協議会の第二回会議は一月十四日、串木野市内で開かれました。

協議の結果、事務事業一元化調整方針(案)、新市名称候補選定小委員会設置規程(案)の各議案をいずれも承認しました。



串木野市で開かれた法定合併協議会の第2回会議

この日の会議に先立ち、法定合併協議会への参加を留保していた下甌村の町弘道村長は市町村長調整会に出席し、一月十日の臨時村議会で一般会計補正予算案から法定協参加関連の対策費が削除された経緯を説明。「できるだけ早い機会に広域合併に向けて村全体の意思統一を図り、法定協参加に向けて最善の努力をしたい」と述べました。これを受けて、関係市町村長は「門戸を開いておく」ということでは一致しま

したが、森卓朗会長は会議冒頭のあいさつで、「まずは下甌村の意思統一が必要だが、広域合併の方向性が出たとしても、事務事業一元化の作業や新市まちづくり計画の作業が進行中で、かなりの時期のズレが生じることになり、法定協への参加は厳しい。平成十六年十月の新市誕生後、合併特例法の期限が切れる平成十七年四月以降の新市

## 新市名称候補 選定小委員会を設置

への編入合併ということも考えられる」との見解を示しました。

二市四町四村からなる川西薩地区任意合併協議会の昨年十一月十八日の第三回会議で、下甌村は法定協への参加を留保しており、一月十四日の法定協議会の第二回会議までに態度表明することになっていました。

合併後の新市の名称を審議するための新市名称候補選定小委員会が一月十四日、法定合併協議会の学識経験者十八人で設置されました。委員長には田中憲夫氏(川内市)、副委員長には山元温治氏(東郷町)が選ばれました。

合併後の新市名称の決定方法については、任意合併協議会で昨年十一月、法定合併協議会設立後に協議会委員から選考委員を選出し、早い時期に公募を行い、公募結果をもとに協議を進めることを申し合わせていました。

小委員会では、新市名称の公募方法と選考基準、候補の選定などについて協議・調整することになっています。二月十三日の法定合併協議会の第三回会議に公募方法などを提案し、年内に新市名称を公募して小委員会で選定候補を提案し、法定合併協議会の審議を経て、平成十六年春に関係市町村議会の議決後、新市の名称が決定する予定になっています。



学識経験者で構成する新市名称候補選定小委員会の委員長・副委員長選任

# 事務事業一元化調整方針

関係市町村の異なる行政サービスや負担水準を統一するため、現在実施している事務事業・制度等を比較し、住民生活に及ぼす影響などを検討し、一本化するための調整案を協議する。

## 〈基本的な事項〉

- ・関係市町村のこれまでのまちづくりの歴史に配慮しつつ、合併後も現行通り存続させるもの、一元化を図るもの、廃止するものを区分。その中で、一元化を図るものについては、統合するものと再編するものを区分する。
- ・一元化を図るもの、廃止するものについては、合併時から実施するものと合併後一定期間において実施するものに区分す

る。

## 〈合併協定項目協議の原則〉

事務事業の調整に当たっては、次の基本的な方針に基づき調整する。

住民生活に支障のないよう速やかな一体性の確保に努める。

行政サービス及び住民福祉の向上に努める。

負担公平の原則に立ち、行政格差を生じないように努める。

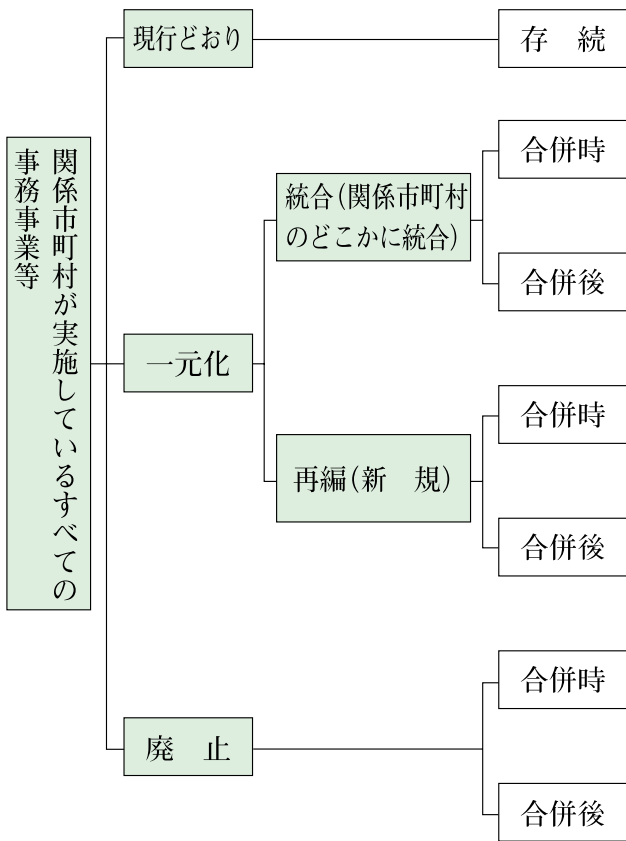
新市において健全な財政運営に努める。

行政改革の観点から、事務事業の見直しに努める。

新市の規模に見合った事務事業の見直しに努める。

公共的団体などの一本化に努める。

## 事務事業のすり合わせの基本的区分



関係市町村が実施しているすべての事務事業等

# 新市まちづくり計画策定方針

## 〈計画の趣旨〉

新市のまちづくりを総合的かつ効果的に推進することを目的とし、本計画を実現することにより、関係市町村の速やかな一体化を促進し、住民福祉の向上と新市全体の均衡ある発展を図る。

## 〈計画の構成〉

新市を建設していくための「基本方針」及びこれを実現するための「基本計画」「実施計画」、公共的施設の統合整備及び財政計画を中心に構成。

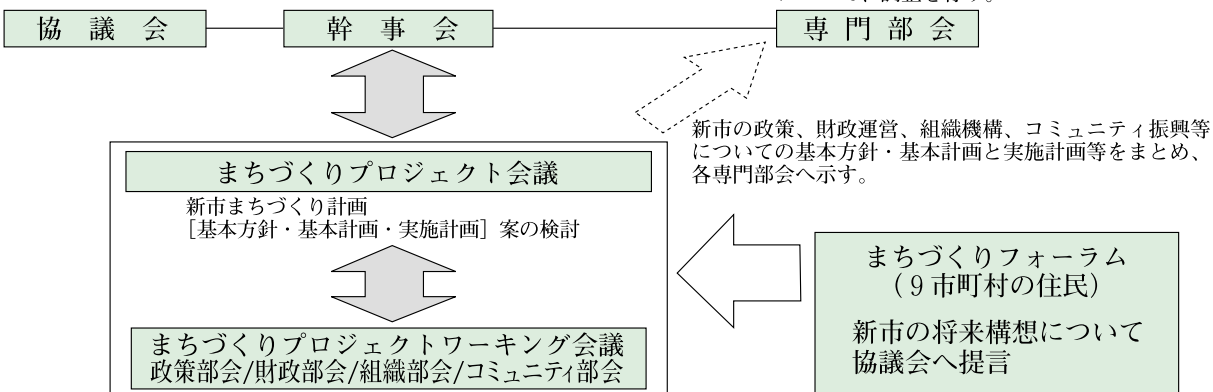
## 〈計画の期間〉

主要事業、公共的施設の統合整備及び財政計画は、合併後、おおむね十年程度の期間について定める。

## 〈計画の内容〉

- ・将来を見据えた長期的視野に立つ。
- ・基本計画並びに実施計画は、各地域の課題を把握し、その特性を生かしながら、ハード、ソフト両面にわたり効果的な事業の展開を図る。
- ・公共的施設の統合整備は、関係市町村の住民生活に急激な変化を及ぼさないよう十分配慮し、地域のバランス、財政事情を考慮しながら逐次実施する。
- ・財政計画は、新市において健全な財政運営が行われるよう十分留意して策定する。
- ・住民意向を十分に踏まえるとともに、合併の効果の最大活用及び合併に伴う懸念事項への適切な対応に十分留意して策定する。

## 組織イメージ



# まちづくりフォーラム発足

## 新市まちづくり計画へ提言

川西薩地区法定合併協議会での新市まちづくり計画に住民の声を反映させようと、関係市町村から推薦されたそれぞれ五人ずつ計四十五人で構成する「まちづくりフォーラム」が一月十日発足しました。同日の第一回会議では、森卓朗会長から

フォーラム委員に委嘱状が手渡され、社会基盤、生活環境、保健福祉、産業経済、教育文化の五つの検討グループに分かれて協議がスタートしました。当面、三月末までに五回開催し、法定協議会に将来構想について提言を行います。

「1月10日発足した「まちづくりフォーラム」

5つのグループに分かれ熱心に討議



### (まちづくりフォーラム会議計画)

会議	日時	内容
第1回	1月10日	プロジェクトチーム活動報告 現状分析
第2回	1月29日	討論
第3回	2月14日	討論
第4回	2月25日	討論(取りまとめ)
第5回	3月12日	提言案の整理
—	3月28日	協議会第4回会議で提言
第6回	4月	提言報告会準備
第7回	5月	提言報告会
第8回	7月	計画骨子案意見交換会①
第9回	7月	計画骨子案意見交換会②
第10回	平成16年1月	計画意見交換会・解散

(一部予定を含む)

「まちづくりフォーラム」の運営  
設置目的

新市まちづくり計画策定に関連して住民自身が長期的視点に立ち、新市のあるべき姿を展望しながら、まちづくりについて提言してもらう。

#### 活動内容

「新市の将来のあるべき姿」や、「まちづくりについての構想」の提言

提言に関する報告会

その他合併後のまちづくりの政策提言

#### 活動期間

平成十五年一月十日から約一年間

#### グループ分け

社会基盤 生活環境 保健福祉 産業  
経済 教育文化

### (新市まちづくり計画策定手順)

まちづくりの提言(まちづくりフォーラム)

計画骨子案策定(プロジェクト会議)

計画骨子案の審議・案決定(幹事会→協議会)

※計画構成→まちづくりの基本方針、基本計画、実施計画

県知事協議・計画の決定(協議会)

# 川西薩地区法定合併協議会 「まちづくりフォーラム」委員

■まちづくりフォーラム代表（1名） 川内市 中 俣 知 大

■まちづくりフォーラム副代表（4名）  
 入来町 池 頭 虎 光  
 串木野市 東 節 代  
 入来町 柏 木 俣  
 樋脇町 中 島 増 夫

## ■分野別委員構成

分 野	市町村名	氏 名	性別	備 考
社会基盤	川内市	中 俣 知 大	男	◎座長
	串木野市	小 川 昭 寛	男	○副座長
	樋脇町	小 辻 浩 史	男	
	入来町	田 島 直 美	女	
	東郷町	桑波田 景 美	男	
	祁答院町	富 森 貢	男	
	里 村	村 岡 豊 治	男	
	上甕村	小 村 亮 一	男	
	鹿島村	小 村 俊 子	女	

分 野	市町村名	氏 名	性別	備 考
産業経済	川内市	影 山 俊 二	男	
	串木野市	楮 山 四 夫	男	○副座長
	樋脇町	堂 前 一 郎	男	
	入来町	柏 木 俣	男	◎座長
	東郷町	小 林 三 郎	男	
	祁答院町	別 府 生 次	男	
	里 村	塩 田 将 史	男	
	上甕村	藏 元 保 海	男	
	鹿島村	橋 野 利 明	男	

分 野	市町村名	氏 名	性別	備 考
生活環境	川内市	今 村 久美子	女	○副座長
	串木野市	勘 場 裕 司	男	
	樋脇町	猶 野 福 子	女	
	入来町	池 頭 虎 光	男	◎座長
	東郷町	木 原 清八郎	男	
	祁答院町	松ヶ野 多鶴子	女	
	里 村	角 淳 子	女	
	上甕村	宮 下 文 明	男	
	鹿島村	小 村 俊 子	女	

分 野	市町村名	氏 名	性別	備 考
教育文化	川内市	春 田 和 満	男	
	串木野市	東 育 代	女	
	樋脇町	中 島 増 夫	男	◎座長
	入来町	松 下 純 一	男	
	東郷町	久留須 清 子	女	
	祁答院町	柏 原 神一郎	男	
	里 村	角 昭 久	男	
	上甕村	和 田 元 子	女	
	鹿島村	平 川 龍 一	男	○副座長

分 野	市町村名	氏 名	性別	備 考
保健福祉	川内市	伊集院 睦 子	女	
	串木野市	東 節 代	女	◎座長
	樋脇町	眞 野 良 子	女	
	入来町	安 藤 千代記	男	
	東郷町	古 城 和 行	男	
	祁答院町	大 園 英 和	男	
	里 村	中 村 一 行	男	
	上甕村	柳 範 一	男	○副座長
	鹿島村	橋 野 勝 彦	男	

